

第 2 分科会 教育課程

豊かな心や確かな力をはぐくむ教育課程の編成と校長の役割

発表者（仙台市 A 地区）

I はじめに

豊かな心や確かな力などの生きる力をはぐくむことを目指し、各学校では教育活動を創意工夫し、教育の充実に努めている。その際、地域や学校や児童の実態を十分に考慮して、いかに適切な教育課程を編成するかが重要な課題である。言うまでもなく、教育課程は校長、教頭、教務主任をはじめとして全教職員が、学年や学級の枠を越えて連携協力し、創意工夫して編成することが大切である。従って、教育課程の編成に当たっては、学校の責任者である校長が指導性を発揮し、明確なビジョンを示すとともに、学校の運営組織を生かして各教職員がいかに創意工夫できるようにするかが、成否の鍵を握ると言っても過言ではない。

そこで、仙台市 A 地区 52 校の教育課程編成の現状を把握し、校長として取り組まなければならない課題について、先進的な実践事例を収集・分析して、教育課程編成における校長の役割を明らかにしようとするものである。

II 研究のねらい

教育課程編成の現状を把握し、校長として取り組まなければならない課題を探り、その解決に資するため、事例を分析することにより、教育課程編成における校長の役割を明らかにする。

III 研究の進め方

1 第 1 年次（平成 17 年度）

第 1 次アンケート調査を実施し、その集計結果を分析することにより、教育課程編成の現状と校長として取り組まなければならない課題を探る。

- (1) 調査対象 仙台市立小学校 A 地区 52 校
- (2) 調査期日 7 月 14 日～7 月 22 日
- (3) 回収率 100%
- (4) 明らかになった課題

- ①校長のビジョンの具現化の方法
- ②教育課程実施状況の把握の仕方
- ③教育課程の評価と公表の在り方
- ④教職員の意識改革と指導力の向上
- ⑤保護者による学校評価の在り方
- ⑥特別支援教育の在り方
- ⑦ビジョン具現化のための人材・予算 等

2 第 2 年次（平成 18 年度）

第 1 次アンケート調査で浮かび上がった課題の中で、豊かな心や確かな力をはぐくむための教育課程の編成で、特に関心の高かった課題 4 点に絞り、第 2 次アンケート調査により、先進的な事例や対応・改善策等について収集・分析し、教育課程編成における校長の役割を明らかにする。

- (1) 調査対象 仙台市立小学校 A 地区 52 校
- (2) 調査期日 6 月 12 日～6 月 30 日
- (3) 回収率 100%

IV 研究の概要

1 校長のビジョンの具現化の方法

(1) 実践事例

- ①『生きる力を培うオリジナル教育課程の創造』（N 校）
 - トップダウンからの教育課程編成
 - 長期ビジョンの提示による意識改革
 - 年間指導計画・教育計画の見直し
 - ②『カリキュラムデザインの作成』（K1 校）
 - 学校経営への参加意識の高揚
 - 効果的・重点的・効率的な指導の実施
 - ③『数値目標十箇条の設定』（K2 校）
 - 『「学校値」を高める確かな学びを』の実現を図る最重点施策の提示
 - 共通ゴールを目指す、全教職員の取組
- ###### (2) 今後の工夫・配慮
- ことばの共有化のための場の設定
 - 具現化を図る担当部署の明確化

2 教育課程実施状況の把握の仕方

(1) 実践事例

- ①『個別面談の実施』(T校)
 - 教職員理解を目的とした面談
 - 人柄・個性・授業観等の把握
- ②『学年ごと実施時数表の提出』(Y1校)
 - 学年主任の職務と役割の明確化
 - 学年主任の育成

(2) 課題ある場合の改善策

- 積極的に対話の場を設定
- 校長自らの授業観察と指導助言

3 教育課程の評価と公表の在り方

(1) 実践事例

- ①『小冊子を作成しての公表』(S校)
 - 保護者・教職員の願いの把握
 - 両者の評価結果併記による公表
 - 要望に応えた次年度取組の明記
- ②『Q&A形式での公表』(F校)
 - 保護者アンケートへの対応
 - 代表的な意見・要望への回答
- ③『評価結果を生かした取組』(O校)
 - 個別指導の充実
 - 担当者の校務分掌への位置づけ

(2) 今後の対応

- 公表の場の工夫
- 評価項目の検討

4 教職員の意識改革と指導力の向上

(1) 実践事例

- ①『教員の視野を広げる工夫』(Y2校)
 - 若手教員の学年主任への登用
 - 不得意分野の研修会参加の奨励
 - 「開かれた教室」の推進
- ②『校長による模範授業等の実施』

(H1校)

- 若手教員の育成
 - 授業力の向上
- ③『各学年への校長の支援』(A校)
 - 児童の生の姿の把握
 - 教師の力量の把握と指導助言

(2) おさえるべき事項

- 研修の充実
- 組織の活性化

5 その他の実践事例

- ①『求同・求異の提示』(O校)
 - 学校全体で子供をはぐくむ考え方
 - 共通理解・共通行動の内容の設定
- ②『職員の創意を生かす教育計画作成委員会の設置・運営』(H2校)
 - 委員会設置による意識の高揚
 - 計画的な取組の実現

V 研究のまとめ

各学校での実践の分析から、教育課程の編制における校長の役割として、下記の4点が重要であると考え、今後の学校運営に生かしていきたい。

1 明確なビジョンの提示と、共通理解を図るための工夫

教育目標実現のための校長ビジョンは、長期的な展望に立った明確かつ具体的なものの提示が大切である。さらに、教職員にビジョンについての共通理解を図るための働きかけや工夫が必要である。

2 校長としてのリーダーシップの発揮

どの実践からも、校長が教職員をリードし、学校や地域等の実態に即した学校運営が実施されていることが分かる。特に、大きな課題である教職員の意識改革や指導力の向上においては、校長のもつ専門性(得意分野)の発揮や、統率力・行動力等の指導性の発揮が求められていると言える。

3 教職員とのコミュニケーションづくり

円滑な学校運営の推進を図る上で、教職員との人間関係が、一つの大きなポイントとなる。この関係の構築を図る手だてとして、対話や協働等が多い。特に、教員評価の面からも、このコミュニケーションづくりが、今後さらに重要になってくると考える。

4 学校評価の積極的な公表

豊かな心や確かな力をはぐくむ上で、家庭や地域との連携が不可欠である。そこで、この連携をより強化なものにするためには、学校運営や教育諸活動に対する評価結果を積極的に公表し、学校への理解度や信頼度を高めていく努力が必要であると考えられる。